

■3月15日(日) 毎日新聞 20面より

各界の3氏 期待を語る

強くたくましく育て

世界スカウトジャンボリー日本委員会会長 (キャノン会長兼社長CEO)

ボーイスカウト日本連盟理事長

ファーストリテイリング会長兼社長

奥島孝康氏

柳井 正氏

御手洗富士夫氏

ーまず世界スカウトジャンボリーの開催の意義からお聞かせください。

奥島氏 世界最大規模の青少年の大会を44年ぶりに日本で開催するという幸運を喜んでおります。今回は「和の精神」がテーマです。まず「大和の国」日本の文化を世界の青少年にできるだけ味わってもらいます。第二には青少年同士の友情の「輪」をつくる。第三は平和の「和」の体験です。

日本は平和国家としてここまで発展してきました。そして、ヒロシマと東日本大震災を乗り越えて元気にたくましく生活できているところを世界の若人たちにぜひ見てもらいたい。日本のスカウト運動をさちに大きく前進させていく、キックオフの年にしたいと考えております。

御手洗氏 今回の大会で日本と世界の青少年が交流し国際的な感覚を持つというのは大きな収穫だと思います。世界人類の共生という言葉がありますが、これは世界の人々がお互いに文化の違い、価値観の違いを認めることから生まれるのだと思います。

グローバリゼーションの進化とITの進展で情報の拡散は広く速くなっており、観念的には世界や異文化を理解するチャンスは増えてきました。しかし、青少年が一堂に会して同じ目標を持って、共同作業をしていく、同じ釜の飯を食うという中から生まれてくる友情は、お互いをポジティブに認め合う土台になると思うんです。

柳井氏 今の若い人には、世界の若者と一緒に生活したり、野外活動を通じて規律とか友情とか勇気、チームワークを育成するような機会がほとんどない。だから、世界大会で若い人々同士が、バーチャル空間ではない現実の生活を共にする。その中で集団の規律や友情を学び協調しながら実際に体を動かして活動することが、リーダーを育てる一番いい機会だと思います。

ー今の若者をどう見ていますか。

奥島氏 日本の子どもたちが問題だと思うのは、見えるものしか信用しなくなっている点です。ところがスカウト運動は、世のため人のために汗を流し涙を流す公共心とか犠牲的精神といった、「目に見えないもの」を大切にすることを重視しています。アメリカは別格として、日本より人口の少ないイギリスやフランス、ドイツで、人口に対するスカウトの割合が日本より多いのは、欧米諸国の国が自に見えない人格とかリーダーシップ、ルールやマナーなどを非常に大事にしており、それが社会的に高く評価されているからです。そういう目には見えないものが評価される社会をもう一度日本でも取り戻す必要があります。

柳井氏 インターネットで簡単に知識を手に入れたり、スマートフォンのゲームばかりするんじゃなくて、もっと世界中の若い人と生活や仕事を一緒にして喜びも悲しみも、ワンチームで分かち合う。そうした体験を若いうちから育むという意味では、ボーイスカウトのような運動は日本全体にとっても必要なものだと思います。ボーイスカウトを経験した人が世界中の経営者になってもちえたらいいんじゃないかと思いませんね。

[つづく]

■当面の活動予定

上進式

集 合：3月29日(日) 12:50 アクトランド八尾
内 容：ビーバー隊からカブ隊へ上進するスカウトを大激励する！
解 散：13:40 (予定)

かわち地区発足集会

集 合：4月5日(日) 9:50 柏原市大和川河川敷(柏原市役所前)
内 容：セレモニーとワイドゲームで盛り上がりよう！
持 ち 物：①アピールカード：大きさ11×7cm程度の紙で作った名刺10枚程度、
②B5サイズ、ピンクの色画用紙に「あ」「つ」「ま」「れ」「か」「わ」「ち」の中から好きな文字1文字を赤マジックで書き、紐で首からつるせるようにしたもの、
解 散：12:00 (予定)
近鉄八尾9:31→区準→山本9:35→高安9:38→恩智9:40→法善寺9:42→堅下9:43→9:44 安堂

■Coming soon

第23回世界スカウトジャンボリー 7月29日(水) ~ 8月7日(金)